

近頃、鼻に憑くものに 3 種あり。その第一は、日本全国何処に行っても店員が「〇〇で宜しかったですでしょうか？」と宣うことである。可笑しな日本語の筆頭格(?)に上げられているにも拘わらず、反って広がりを見せているようだ。最もしっかり躰られたお店ではそのような言葉使いはついぞ聞いた事がないのがせめてもの救いだ。然し、該言葉が定着した場合には正しい日本語となってしまうのかも知れぬ。実(げ)に恐ろしき哉。

第二は、今までも折々の記で指摘した我国の隣国の相も変わらぬ靖国や領土・領海を巡る活動、歴史認識等に関する諸活動等反日を通り過ぎしての侮日的言動と我国の懦弱なる対応である。

第三は、女性の服装や態度である。中でも目に余るものが女子高生の丈の殆どなきが如きスカートであり、階段を降る時に傍若無人・得意然として靴(ミュールと言うらしい)のかかとを高鳴らせる行為である。教養の無さを暴露していることに全く気付かぬらしい。何れにしる、あの音は、耳障り以外の何物でもない。

小言幸兵衛の様になってしまった。本来の話題に転じることとする。

最近、結構多忙な日々を送っているような気がしてならない。と言うのも、毎日マンションの理事長としての処置事項や会議、修繕委員会への出席等々があり、三木会・尚友会の幹事としての臨時会議や処置事項も時にあり(従来と違う事務局運営をやる必要があり、そのための方策を現在検討中であり、また所要の処置を実施中である。)、同期生会長として現在は同期生ホームページに関して各委員に御願する立場にあり、防大 13 期生東京地区の例会の幹事もやらざるを得ないと言うわけで、心理的に気忙しい状況に追い込まれているような気がする。(蛇足では在るが、本年度の春季生保 OB 連絡会も幹事役であった。)



現役時代は、如何に忙しくとも多忙感と言うものを感じた事がなかったのに不思議である。実際問題として多忙ではなくても多忙感や気忙しさを感じるのは、未だ成熟した社会人に成り切っていない証左であろう。本人は既に社会人に成り切ったと思っていたが、どうもそうではなかったようだ。

社会人になり切るためには少なくとも 2 ステップがあるようだ。

第一ステップは、基本的な行動を自らが遅滞なく円滑に実施できるまでだろう。電車の切符の買い方やバスに乗る時に躊躇なく出来なければならない。今迄は、何処に行くにしても何をやるにしても、副官か庶務の誰かが随行してくれて何くれと気を廻してくれたので、何も判断することもなく、彼等の言うが儘に行動しておれば良かった。退職してからつい最近までは、何かがあるとつい後ろを振り向いて『おいっ』と声を掛けたくなったものである。それがなくなるのに一年近く掛かったろうか。私が東京に住んでいた頃には「スイカ」なるものはなく、家内から話を聞くのみであった。使用法は何となく解ったけれども、チャージの方法などどぎまぎしたものである。パスネットも 2 枚入れて大丈夫なのか等と不安になったりしたものだ。要らぬ心配だったけれど…

現役時代は、飲んでも誰かが連れて帰ってくれた(今頃になってその有難味が解る。お世話になりました。感謝!)けれども、今はそうは行かない。電車の中で居眠りして、慌てて

降りた挙句に、電車の網棚に財布やカード入りのカバンの忘れ物をして大慌てしたこともあった。

マァー、色々在りましたが、最近では基本的な生活や行動においては特段の事はなくなつたようである。一年余り掛かつたようだが、第一ステップは卒業したようだ。

さて、第二ステップは何かと言うと、部下と言うか幕僚の居ない悲哀から脱却すると言うことだろう。今迄は、指揮官は決心する動物であり、その決心の為の情報を収集し、必要な地域・情報・作戦・兵站等を見積り、計画を策定するのは全て幕僚諸官の任務であり、指揮官は、それを指導すること或いは指針を与える事に専念すればよかつた。ところが退職した今となつては当然のことであるが、その様な部下は存在しない。大々的な計画をする訳ではなくとも、自らが全て、情報の収集、見積の実施、計画の策定、計画の実行、等々を自ら実施しなくてはならない。こんな事も出来ないのかと、つい最近までは幕僚を罵倒していたけれども、自らがやってみると結構大変なものだ。反省頻りである。

更には、部隊の場合は指揮系統が明確であつて、指揮官が指示すれば概ねその通りに大体の事が遂行されたけれども、一般社会の場合は、同期生と雖もそういう訳には行かない。理事長としてそんなに強い権限がある訳ではない。勿論管理者として権限は相当強いものであるとしても、それは組合員の同意と信頼があればこそである。

このような環境下において如何にして目的を達するか、そんなコツみたいなものが掴めたら第二ステップは卒業なのかもしれない。

自衛隊とは違った業務遂行の要領がある筈だが、早くそれを見つけ出さなければ、ストレスが嵩じて、胃が痛くなる。だからと言って、好い加減にする訳には行かない。己が全部背負うなどと考えぬことだろう。皆の協力を如何に得るかがポイントか。